

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBI 中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ（愛称：jrevive）」は、2020年7月22日に第14期決算を行いました。

当ファンドは、中小型割安成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引市場に上場する中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

### 第14期末(2020年7月22日)

基準価額	38,251円
純資産総額	9,563百万円
第14期	
騰落率	2.7%
分配金(税込み)合計	0円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
右記URLにアクセス ⇒ 「ファンド情報」 ⇒ 「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択ください。

# SBI 中小型割安成長株ファンド ジェイリバイブ (愛称:jrevive)

追加型投信/国内/株式

## 交付運用報告書

第14期(決算日2020年7月22日)

作成対象期間(2019年7月23日~2020年7月22日)

 SBI Asset Management

SBI アセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9:00~17:00

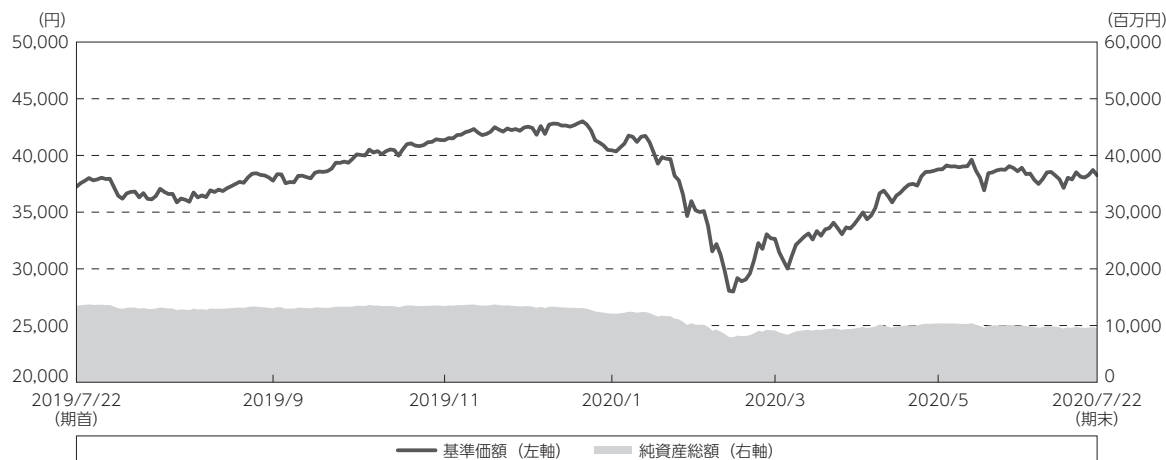
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

## 運用経過

## 基準価額等の推移

(2019年7月23日～2020年7月22日)



期首：37,239円

期末：38,251円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 2.7% (分配金再投資ベース)

(注1) 当ファンドは、株価が下落した銘柄の中から財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、ベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、期首37,239円でスタートした後、2019年8月に米国が対中制裁関税「第4弾」の発動を表明したことから国内株式市場が下落し、当ファンドも軟調に推移しました。しかし、米中貿易協議進展への期待や外国為替市場における円安進行などを背景に国内株式市場が反転すると、企業業績の底入れ期待などを追い風に当ファンドも上昇基調となりました。また、日米の長期金利の上昇をきっかけに、それまでの大型株・グロース株優位のトレンドから、小型株・バリュー株優位に転じたこともプラスに寄与しました。

年明け後も銘柄選択の奏功により上昇トレンドを維持し、1月22日に期中最高値となる43,011円を付けました。期の後半は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて世界的に株価が急落したことから、当ファンドも急落し、3月16日には期中最安値となる27,996円を付けました。

その後は、相場の戻りと共に大きく反発し、6月上旬には基準価額は39,000円台を回復しました。期末にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大の第2波に対する警戒感から一進一退の展開が続き、決算日である7月22日の基準価額は38,251円となりました。

## 1口当たりの費用明細

(2019年7月23日～2020年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	711	1.870	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(401)	(1.056)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(280)	(0.737)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 29)	(0.077)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	49	0.130	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株 式 )	( 49)	(0.130)	
(c) そ の 他 費 用	2	0.004	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	762	2.004	
期中の平均基準価額は、38,011円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

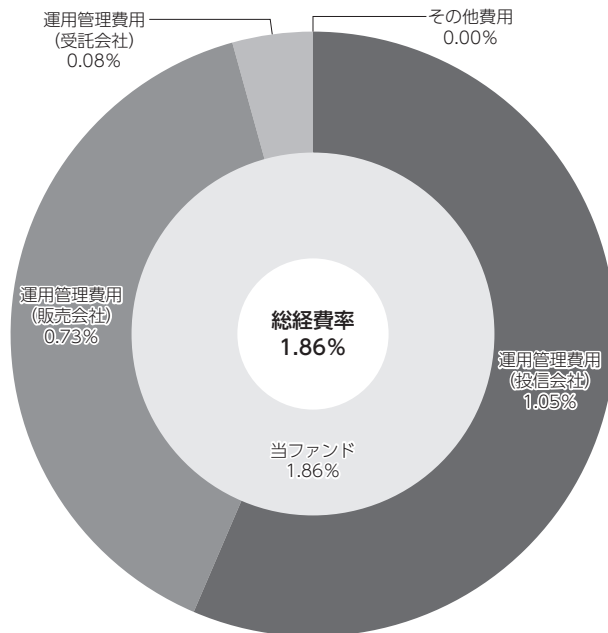
(注4) 売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。

(注5) 各比率は1口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.86%です。



(注1) 上記費用は、1口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

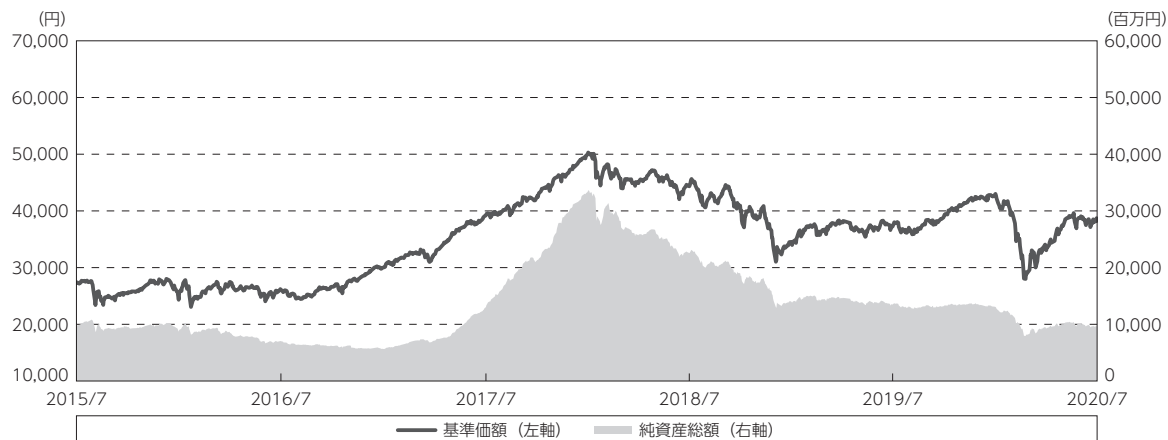
(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2015年7月22日～2020年7月22日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

	2015年7月22日 期首	2016年7月22日 決算日	2017年7月24日 決算日	2018年7月23日 決算日	2019年7月22日 決算日	2020年7月22日 決算日
基準価額 (円)	27,284	26,094	39,215	44,331	37,239	38,251
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	△ 4.4	50.3	13.0	△ 16.0	2.7
純資産総額 (百万円)	9,614	7,019	13,049	22,569	13,493	9,563

(注1) 当ファンドは、株価が下落した銘柄の中から財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、ベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

## 投資環境

(2019年7月23日～2020年7月22日)

当期の国内株式市場は、米国による対中制裁関税「第4弾」の発動をきっかけに下落してスタートすると、香港デモの激化や、米国で長短金利の逆転が発生したことによる景気後退懸念の高まりなどを受け、期初は弱含みの展開になりました。しかし、2019年9月に米中貿易協議の進展期待や外国為替市場における円安進行などをきっかけに反発すると、米中貿易協議での部分合意や半導体市況の回復観測、企業業績の底入れ期待などを背景に上昇基調となりました。12月中旬には英国総選挙での与党勝利や米中貿易協議での「第1段階」合意観測を受け急伸し、TOPIXは年初来高値となる1,747ポイントを付けました。

期の後半は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、世界的な株価急落が起きました。新型コロナウイルスの感染拡大が止まらないなか米欧の中央銀行が追加金融政策を打ち出したものの、原油安や米国の景気後退(リセッション)懸念の高まりを背景に不安定な相場が続き、TOPIXは一時1,200ポイントを割りこむまで下落しました。しかし、日銀が大規模な上場投資信託(ETF)の買入を行うと下げ止まり、さらに米国の大型経済政策の成立期待などから反発に転じました。

その後も欧米での新規感染者数の鈍化や、米連邦準備制度理事会(FRB)による迅速かつ大規模な金融支援策、国内での緊急事態宣言の解除などを好感して急速に値を戻しました。期末にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大の第2波に対する懸念もあり、一進一退の動きで期末を迎えました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2019年7月23日～2020年7月22日)

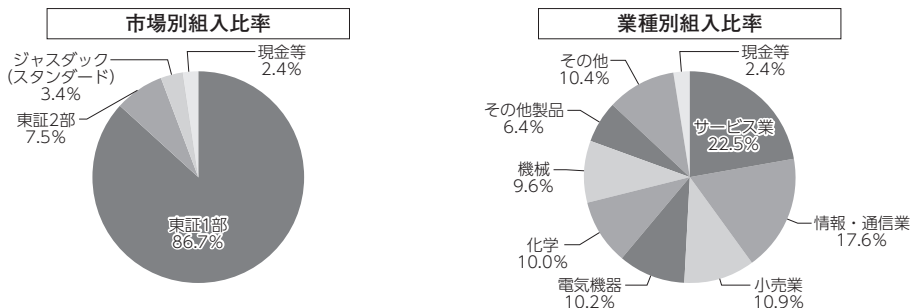
## &lt;当ファンド&gt;

主要投資対象である中小型割安成長株・マザーファンドを高位に組み入れて運用を行いました。

## &lt;中小型割安成長株・マザーファンド&gt;

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の助言をもとに投資判断を行い、運用いたしました。投資を行った銘柄は、株価が下落しているものの、財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業です。ボトムアップ調査を行った銘柄のうち、株価水準、財務安定性、短期業績の安定性と中長期戦略、企業経営者の理念・志、等を総合的に評価判断し、おおむね50銘柄を組み入れ、逐次銘柄の見直しを行いました。また、銘柄分散、時間分散を考慮し、1銘柄おおむね4%程度としました。

株式の組入比率に関しては、おおむね95%以上を維持しました。期末の株式組入比率は97.6%となっています。



※組入比率はマザーファンドの純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

(2019年7月23日～2020年7月22日)

当ファンドは、株価が下落した銘柄の中から財務安定性に優れ、業務も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資するという特色を持つファンドであり、ベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

**分配金**

(2019年7月23日～2020年7月22日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

**○分配原資の内訳**

(単位:円、1口当たり、税込み)

項 目	第14期
	2019年7月23日～ 2020年7月22日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	28,251

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の見通しと運用方針

### <当ファンド>

引き続き中小型割安成長株・マザーファンド受益証券を高位に組入れる方針で運用してまいります。

### <中小型割安成長株・マザーファンド>

引き続きエンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の助言を受け当社で投資判断の上、財務内容が健全で堅実経営を継続する革新的な成長企業でありながら、株価がその実体と比して大幅に過小評価されて割安と判断される堅実成長企業を厳選して投資してまいります。

なお、投資助言を行っているエンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社では、以下のよう  
にコメントしています。

2020年は、2月以降に新型コロナウイルスの感染拡大を受けて内外の株式市場は混乱しました。5月下旬に緊急事態宣言が解除され、その後も感染拡大の第2波の懸念が残っていますが、私たちの生活も企業活動も徐々に動き出してきたようです。この間も、私共ではさまざまなWeb会議システムなどを活用しつつ、組入企業各社の経営者の方々と面談を継続し、2020年上半期（1月～6月）の面談件数は延べ514社となりました。前年同時期が524社であったことから、ほぼ同じ社数で、年間約1,000社のペースを維持できています。また、ある企業からは「IR（投資家向け情報発信）の面談数が半数以下に減っている」という話もうかがっていますので、こうした環境下でもしっかりした調査を継続することこそが、今後のパフォーマンスにつながると考えています。

もちろん、経営者や社員の熱量（モチベーション：やる気）や、企業体質といった目に見えないけれども重要な要素は、直接面談や先方訪問で得られることも多いため、緊急事態宣言解除後は徐々に直接お会いするリアルなミーティング回数も増やしています。ITシステムとリアルな面談を組み合わせることで、しっかりとした調査活動が可能であると自信を深めているところです。

他方、企業全般を見ましても、新型コロナウイルスの感染拡大によって経営環境や業務の進め方も大きく変わろうとしています。今後も丹念な調査を通じて「コロナを味方につけて」新たな飛躍のチャンスとするような革新成長企業を積極的に見出してまいります。



## お知らせ

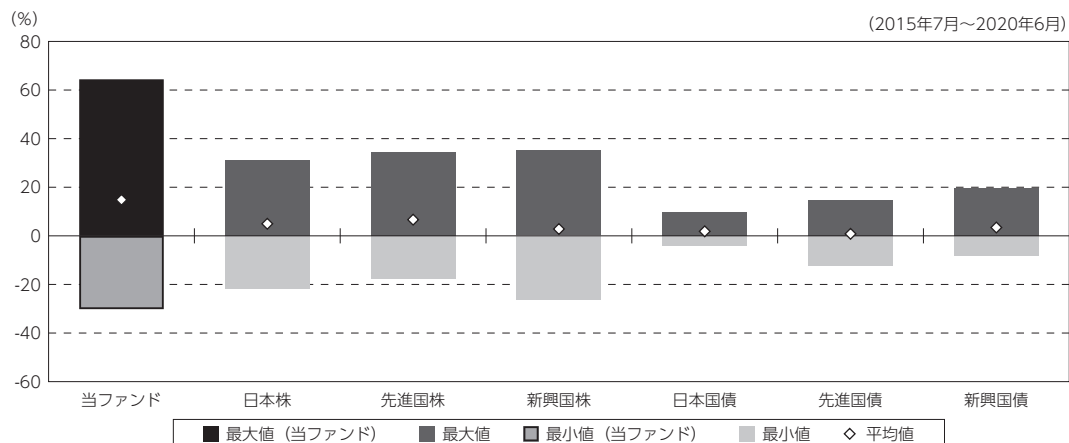
収益分配にかかる配当控除の適合条件をより明確化するため、信託約款に所要の変更を行いました。  
(変更適用日：2019年10月22日)

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（設定日：2006年7月31日）	
運用方針	中小型割安成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド（ベビーファンド）	中小型割安成長株・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することもあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式のうち中小型株を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド（ベビーファンド）	主として、中小型割安成長株・マザーファンド受益証券に投資し、信託財産の積極的な成長をめざして運用を行います。 なお、運用にあたっては中小型割安成長株・マザーファンド受益証券の組入比率を原則として高位に維持します。
	マザーファンド	わが国証券取引所上場株式のうち中小型株を主要投資対象とします。 また、株式の投資に際しては、株価が下落して過小評価された銘柄から、財務安定性に優れ、収益の回復による株価上昇余地が高く、回復によってわが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資します。
分配方針	毎決算時（毎年7月22日。ただし、休業日の場合は翌営業日。）に、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。 配当等収益とマザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち信託財産に属するとみなした額と売買益（評価益を含みます。）との合計額から諸経費等を控除した金額の範囲とします。委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	64.4	30.9	34.5	35.0	9.5	14.5	19.5
最小値	△ 30.2	△ 21.7	△ 17.6	△ 26.4	△ 4.1	△ 12.3	△ 8.0
平均値	14.8	5.0	6.7	2.8	1.9	0.8	3.4

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2015年7月から2020年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

## 《各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式

先進国株…Morningstar 先進国株式 (除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式

日本国債…Morningstar 日本国債

先進国債…Morningstar グローバル国債 (除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て利子・配当込みのグロス・リターン指数です。

\*各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2020年7月22日現在)

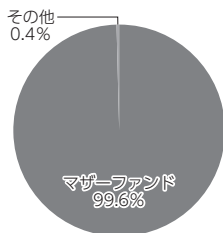
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第14期末
中小型割安成長株・マザーファンド	99.6%
組入銘柄数	1銘柄

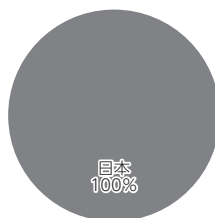
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

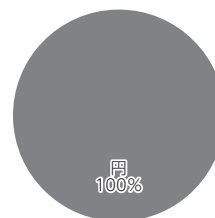
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## 純資産等

項目	第14期末
	2020年7月22日
純資産総額	9,563,739,936円
受益権総口数	250,024口
1口当たり基準価額	38,251円

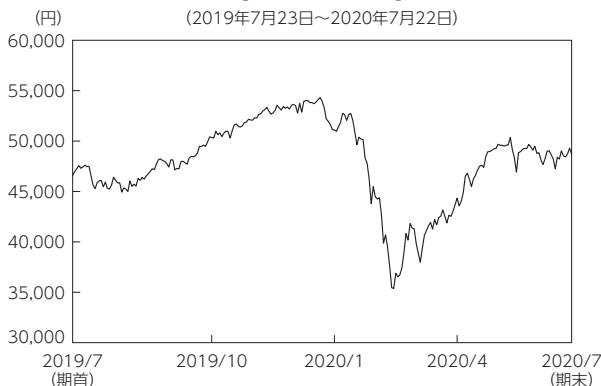
(注) 期中における追加設定元本額は289,630,000円、同解約元本額は1,412,820,000円です。

## 組入上位ファンドの概要

## 中小型割安成長株・マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2019年7月23日～2020年7月22日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2019年7月23日～2020年7月22日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	63 (63)	0.131 (0.131)
(b) その他費用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	63	0.131

期中の平均基準価額は、47,956円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

## 【組入上位10銘柄】

(2020年7月22日現在)

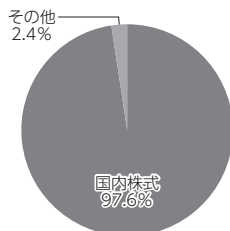
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
1 SHOEI	その他製品	円	日本	3.8%
2 ヨコオ	電気機器	円	日本	3.8%
3 扶桑化学工業	化学	円	日本	3.8%
4 ジョイフル本田	小売業	円	日本	3.7%
5 プレステージ・インターナショナル	サービス業	円	日本	3.6%
6 くら寿司	小売業	円	日本	3.5%
7 ブロードリーフ	情報・通信業	円	日本	3.5%
8 バリューコマース	サービス業	円	日本	3.4%
9 プロトコーポレーション	情報・通信業	円	日本	3.0%
10 M&Aキャピタルパートナーズ	サービス業	円	日本	2.9%
組入銘柄数		51銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

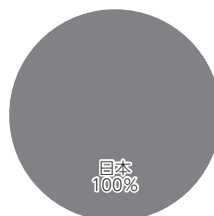
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

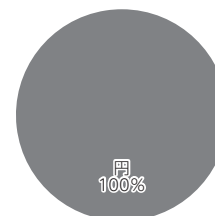
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2020年7月22日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### <各指数の概要>

- 日本株：Morningstar 日本株式は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

### <重要事項>

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。